

製品名: PD-L1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86409**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:200-1:500,FC 1:200-1:500,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW:33 kDa; Observed MW:40-50 kDa

抗原情報

遺伝子名	PD-L1
別名	B7-H; B7H1; PDL1; PD-L1; PDCD1L1; PDCD1LG1
遺伝子 ID	29126
SwissProt ID	Q9NZQ7
免疫原	ヒト PD-L1 の合成ペプチド

背景

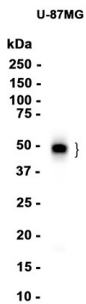
この遺伝子は、T細胞やB細胞などの造血細胞および非造血細胞、そして様々な腫瘍細胞によって発現される免疫抑制受容体リガンド

をコードしています。コードされているタンパク質は、免疫グロブリンV様ドメインおよびC様ドメインを有するI型膜貫通タンパク質です。このリガンドと受容体の相互作用は、T細胞の活性化およびサイトカイン産生を阻害します。正常組織の感染または炎症において、この相互作用は免疫応答の恒常性を維持することで自己免疫を予防するために重要です。腫瘍微小環境において、この相互作用は細胞傷害性T細胞の不活性化を介して腫瘍細胞に免疫逃避を提供します。腫瘍細胞におけるこの遺伝子の発現は、大腸癌や腎細胞癌を含む多くの種類のヒト悪性腫瘍の予後因子と考えられています。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエントが生じます。[RefSeq 提供、2015年9月]

研究分野

-

画像データ



PD-L1 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した U-87MG 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。